

今月の表紙

藍の都脳神経外科病院 中央病歴管理室

当院は脳卒中急性期治療をテーマとした専門病院として平成 23 年 7 月に開院しました。

現在は、脳卒中疾患に特化し、急性期はもちろん回復期リハビリ、在宅への復帰まで一貫して対応していくという診療が、当院の大きな特長となっています。

病床数は 80 床で、SCU 脳卒中ケアユニット、一般病棟 7 対 1、回復期リハビリテーション病棟があり、平成 25 年 7 月 1 日より、大阪脳卒中医療連携ネットワークに加入し、計画管理病院として位置づけられました。

中央病歴室は現在 2 名の診療情報管理士（うち 1 名は週 2 日）で業務を行っております。

主な業務は DPC 病名コーディング、様式 1 のデータ作成、退院サマリーの点検、入院診療録の管理・保管・貸出・返却・アライバイ管理、退院患者統計などを行っています。

DPC 準備病院ではありますが、DPC 病院として本格運用となれば診療情報管理の業務がますます重要になってきます。

管理士としてはまだまだ経験不足ではありますが、病歴セミナーを通じて交流を深め、気軽に声をかけていただき、情報交換ができればとおもっております。

質の高い診療情報管理業務ができるよう皆様のお力を借りながら日々取り組んでいきたいと考えております。これからもよろしくおねがいいたします。（丸山敬子）



表紙左から、中川 和紀さん、丸山 敬子さん

編集後記

12 月 24 日クリスマスイブ、府中病院の経営委員会では、自分の描く病院（夢）という題でプレゼン発表会が行われました。委員会メンバーは院長、副院長、各部副部長以上（看護部、薬剤部、診療技術部、管理部）と私の 14 名です。私は、30 年後の地域とまち、病院のあり方を“次世代型病院のあり方”と表現し、プレゼンを行いました。（内容は、近ゼミでお会いした時に機会があれば・・・）

夢は言葉で伝えることで、想いが共感・共有し、絵で伝えることでよりイメージが形成されます。イメージが形成されれば、それを実現しようと意見が飛び交い、具体化されていきます。具体化されれば、行動につながります。年が明け、初夢を見た方も多いと思います。一度、夢を言語化し、絵にしてみても、語り合う時間も良いものです。

（府中病院 奥村峰和）

セミナー通信担当） 高村松世/加古川西市民病院 奥村峰和/府中病院

近畿病歴管理セミナー

近畿病歴管理セミナー

検索

広報誌「セミナー通信」Vol.77/平成 26 年 12 月 31 日発行 編集・発行/セミナー通信担当